

## 福岡市NPOボランティア交流センター評価委員会議事録（要旨）

- 1 日 時 令和5年8月7日（月）14:00～16:40
- 2 場 所 福岡市NPO・ボランティア交流センター セミナールーム
- 3 出席者 （出席委員4名）  
蓮見委員、千葉委員、岩永委員、倉富委員
- 4 傍聴人 3人
- 5 議事（要旨）

### （1）開会

### （2）会議の公開・非公開について

評価委員会設置要綱に基づき、「評価基準に関すること」及び「指定管理者からの意見聴取」は公開、「評価の実施」については非公開とする。

### （3）評価基準について

【委員】評価シートに対する意見なし。

### （4）指定管理者からの意見聴取

【委員】電気代の高騰は予期できないと思うが、市から電気代込みで委託されていたのか。高騰分は加味されていないのか。

【指定管理者】大体の平均がこれ位というところで次年度予算を組むので、前年度に想定の数値で組んでおり、電気代が上がっていくことは想定できない。昨年度は異例のことだったため、市から年度末に補填があった。

【委員】光熱費で圧迫され本来の事業ができないと本末転倒。これは、あすみんだけの話ではない。

【委員】助成金カレンダーを新たに作っているが、実際に団体の計画立案に活用された、助成金を獲得したなどの利用者の声はあるか。

【指定管理者】それはまだない。相談された時に一緒に見る使い方をしている。計画的に団体へ見せることができる。以前は来月募集がある位しか紹介できなかったため、長期的に紹介できなかった。今後、年間カレンダーをどこかに張り出せればと考えている。ものすごい数がありどう掲示しようか悩んでいる。

【委員】費用はかかるが検索機能をサイトに持たせることはできないか。助成金情報にアンテナを張っているNPOに情報提供できる。

【指定管理者】助成金情報は毎週、サイトから収集している。ストックを全部見せることになれば、全国で一番助成金情報を持っているサイトができることになり、注目も集める。それにきちんと答えていけないといけないため、踏み切ることが難しい。

- 【委員】カレンダーとして見られることで、NPOの活動自体の計画性がより保たれる効果がある。
- 【委員】コロナ下で市民活動の在り方が変わったということだが、支援の在り方で工夫したところは何か。
- 【指定管理者】コロナと重なるか分からないが、団体が人数として大きくならなくなった。何百人規模の団体が、力がなくなるといふか、細かい狙いの団体が増えている。これがコロナで加速したのではないか。支援の方も、基盤強化は組織を大きくするという支援から、内容を特化するや自分たちがやれることをしていく方向に変わっている。
- 【指定管理者】派手な支援でないが、場所を使う時にオンラインのサポートなどを行っている。
- 【委員】情報発信について、どういうものが、効果があるのか。
- 【指定管理者】高齢者の方やあすみに来たことがない方は市政だよりが一番。初めて来る方は市政だよりが一番多い。常連はウェブを見て来る方が多い。使い分けがある。
- 【委員】福岡市はラインがあるが、あすみんとしてラインは使わないのか。
- 【指定管理者】まだない。
- 【委員】市のラインは160万人登録があり、有効ではないか。
- 【指定管理者】ぜひ使わせていただく。
- 【委員】登録団体の更新率80%は例年と比べ多いのか。
- 【指定管理者】例年並みに戻った。去年は更新率がとても高かったが、団体が活動し出すと例年並みに戻った。一番良い時で100団体位新規があり、80団体位更新していた。
- 【委員】新規は増えているが、更新率は同じという事か。
- 【指定管理者】一度だけの利用で更新しない団体も多い。他は解散もある。
- 【委員】新陳代謝になっているということか。
- 【指定管理者】そうです。
- 【委員】未更新の69団体は手続きの面倒さがあったのか。オンライン上で手続きできるのか。
- 【指定管理者】昨年度は窓口に来ていただいており、煩わしさやコロナで出て来られないことがあったため、今年度からメールでも受付をするようにした。メールを使われる方がどれくらいかはこれからになる。少しずつオンライン対応や更新手続きの簡素化をしている。ただ、年に1度の更新時にどんな活動をしているか等、団体のことを知り、こんなサポートができるのでは、こんな事業で一緒にできるのではとやってきており、その部分が薄くなるのがあるのかどうかがある。オンラインでの簡易的な更新を進めていくことを検討しているが、年に1回、団体と1時間位話すことをやっていたので、それがなくなるのもどうか

検討している。

【委員】新規登録団体のテーマ、カテゴリー、代表者を含めた属性や傾向を知りたい。

【指定管理者】取れていない。多様だと思う。以前登録していたところが改めて登録することもあるし、初めてのところが半分ぐらい。あすみに登録するために団体名を作るところが3割位ある。任意団体が6割、NPO法人が3割、その他1割で、任意団体が多い。

【委員】任意団体からNPO法人を目指すところが年に何件出てくるのか。

【指定管理者】そのまま任意団体が多い。

【委員】冒頭でコロナ下から少しずつ回復とのことだが、そのような中で目標設定しにくと思うが、どういうことで目標値を決めたのか？

【指定管理者】前年度を参考にしながら。今年は回復傾向にあるため、目標をクリアしやすいと思っていた。目標をもう少し厳しくしてもいいと思いつつも根拠がないため、前年度を参考にした。

【委員】昨年度もあったが、市民公益活動に若い人を巻き込むために何をしたのか。アンケートの結果を見ても半分以上が60代、70代が現状。具体的に若い人を呼び込むためにどんなことをしたのか。

【指定管理者】30・40代に対してはまだ策を見いだせていない。30・40代は働いている世代なので、企業として何かしませんかが一番効果的。企業との連携や企業の社会貢献で一緒にしませんか、そこからそういう世界があるのかと知ってもらう。学生は、ボランティアは当たり前になっているので、自分のやりたいことと合わせた取り組みをしようとかこれを仕事につなげようとインターン生には話している。創業支援と変わりがないと思ってやっている。事業化することも考えてやっついていかないといけないと思っている。

【委員】インターンに来た学生だけでなく、組織的、体系的にできるものがあればいいと思うが難しいか。

【指定管理者】以前は小学校に出向いて講座もしていたが、アウトリーチをするには人力的に難しい。オーダー講座は収入を得ながらする仕組みができないか。手弁当だけでは厳しい。

【委員】利用者数、市民活動の在り方自体の変化について、来館者数は減っているが相談数は増えているなど、市民活動の在り方は年代によって違うのか。どう感じているのか。若者向けでソーシャルビジネス、スタートアップ関連との部署との連携など、実績があるのか。

【指定管理者】もう少し誰でも来られる場所に、例えばお酒も飲める場所にしたら等議論はしたが、そこまで行き過ぎると市民活動やボランティアの視点から離れてしまう。とは言え、収入を得ながらボランティアをするなど、ビジネスシーンでもボランティアが当たり前になっている。若者の中では仕事として考えるの

が当たり前になっている。

NPO 法施行 20 周年、あすみん開館から 20 周年で、第一世代が引退され、大手の NPO がいなくなり、群雄割拠の時代となっている。社会課題が目まぐるしく変わるため、NPO も生き残りのためにブラッシュアップしている。

【委員】ソーシャルビジネスやスタートアップとの連携は？

【指定管理者】スタートアップから相談の内容によっては紹介してもらうこともある、お互いに紹介しあったりしている。

【委員】市側からも年に 1 度位、お互いを混ぜるような共働イベントをやったほうがいい。向こう側はこちら側の世界を知らないから。

【委員】あすみんオーダー講座で早良区・西区用に作成したこの動画は同じテーマだったら貸し出しもできるのか。

【指定管理者】出来上がりをもっていない。出演費をもらっただけ。

【委員】あすみんの資産・コンテンツにはなっていないのか。

【指定管理者】なっていない。動画のテーマに答えられるところが見当たらない、あすみんしか話してくれないと言ってもらった。

【委員】市民参画の仕組み、ボランティアコーディネートが増えているが、コーディネートする側の力量がいるのでは。スタッフ育成の項目に無いがどうしているのか。

【指定管理者】ボランティアコーディネーションまでなると受け入れ団体側の負担も大きいので、センター長、事務局長に繋ぐようにしている。ただ、企業の相談はある程度まで、狙い等は聞かせている。

【委員】企業も予算を持っているので、コーディネートはかなり技術がいる。企業からお金を取れるところでは、仕組みを作ってはどうか、資金調達としてはどうか。

【指定管理者】基金に回すといいと思う。あすみん夢ファンドに入って他の団体の助成金になる。

【委員】企業側も自分たちでできないからリソースを求めているので。

【委員】交流会は、ハブ機能としてはもっと多い方がいいが、団体としては参加するインセンティブを感じにくい、どういう風に設計したのか。

【指定管理者】今はサークルというか、できたばかりの団体が多い。自分たちはこうだとまだ言えない団体が多い。自分たちはこうだとまだ言えない団体同士が、交流する。新規団体交流会は特にそう、「はじめまして」を言う場。小規模のところをあすみんが担っている。大きな交流イベントをやりたいとは思っている。

【委員】講座だと多種多様な団体に参加すると思うが、交流要素はないのか。

【指定管理者】講座の中でワークはする。終わったあとで、残って話しているところは多くあるが、なにかしら交流に結び付けることはしているが、明確にやっているものはない。

【委員】NPOだけでなくNPOと企業の交流会は？

【指定管理者】以前はしていたが、属性で切るとはしていない。以前参加者から属性で切ると入りにくいと言われたため。その中で色々な主体が交流している。

【委員】人員確保は、非常に大変だと思う。5名退職は相当大変。やればやるほど評価されるが、予算は限られている。採用で工夫したところはあるか。

【指定管理者】あすみんで雇用はしない。2社それぞれでの雇用となる。ミカサはミカサの狙いで雇用する。将来ここで学んだ職員が幹部になることも考えている。NPO側はコミュニケーションを学べる場であると考えている。別にアルバイトを雇ったりしている。こういう場で働きたい人、経験の場として考えてくれる人をアルバイトとして雇っている。

指定管理期間が5年になっているが、正社員として雇用するようにしている。5年終わっても他の施設にいけるよう契約社員は減らすよう努力している。

【委員】市のモニタリングの改善指示で、広報の遅れについて、繰り返し指摘があったが改善についてどうなったのか。

【指定管理者】イベントの内容をもっと良くしたい気持ちが強く、ギリギリまで詰めていて遅くなった。締切の設定をもっと早めに設定するとか、本部との事業会議を整備しいつを締切にするかを決められるようになった。

## (5) 評価の実施

非公開

## (6) 閉会

評価委員会での意見をふまえ、市が最終評価を決定する。評価結果については、指定管理者へ通知し、市ホームページで公表することとする。